

フランス語 CALL 教材の実際と適用

— PowerPoint, インタビュー, Terra, iChat —

平手友彦

広島大学総合科学部

はじめに

本稿の目的は筆者が広島大学総合科学部で行っているコンピュータを利用したフランス語の講義、いわゆる CALL フランス語講義の実際を紹介し、CALL 教材の適用並びにその問題点を報告することである¹⁾。フランス語に限らず CALL による外国語学習については、既に学会その他で数々の試みが紹介されているが、ここでは実際の講義における CALL 教材使用の目的及び方法と、受講学生によるアンケート結果を結び付け、今後の CALL 教材の開発と適用についてささやかながら指針を与えてみたい。

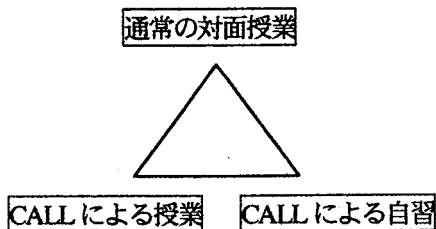
1 前提

まず前提となる筆者が行う講義の形態と構成、そして講義を行う CALL 教室について述べなければならない。本研究で対象となる講義は一、二年次のクラスであるが、通常の大学教養課程のフランス語の講義とは異なる。第一に、この講義は「インテンシブコース」と呼ばれ、連動した週4コマの講義の中の一つとして位置付けられる点である。一年次の「インテンシブコース」は、筆者が担当する二つの「ベーシック・フランス語」と2名のフランス人がそれぞれ担当する「インテンシブ・フランス語A」と「インテンシブ・フランス語B」の4科目で構成され、二年次のそれは、一年次の3名に1名の日本人教員が加わった計4名がそれぞれ1コマを担当する²⁾。主として一年次の「インテンシブコース」を修了した学生が二年次の「インテンシブコース」に進むが、時間割の都合で全ての学生が二年次のコースに進むことができるわけではない。第二の相違点は、講義で用いる教科書がフランスで作成されたビデオ付き教材 *Reflets* 1 であり、この教材を2年かけて学習する点である³⁾。担当する教員は講義での学習内容、宿題、注意事項等をノートに記して回覧し、各講義が有機的に繋がるように配慮されている。第三は、この「インテンシブコース」が将来フランス語を専門として使う学生を対象としており、主として広島大学総合科学部、文学部、教育学部の学生が受講していることである。クラス人数の規模は最大で45人と設定されているが、今年度は一年生が33名、二年生が12名である。第四に、将来的にフランス語を専門として使うが故に、一年次の前期に副教材を利用してフランス語の発音、そして綴り字と発音の関係を徹底的に学習する点である⁴⁾。以上述べたようにこの「インテンシブコース」は通常の週2コマで1年間学習する教養フランス語とは大きく異なり、いわば「フランス語専門家養成コース」と考えることもできる。筆者はこれら一、二年次の連動する講義の中でそれぞれ1コマを CALL 教室で行っており、本研究での成果は主としてこの教室で生まれたものである。

この CALL の講義を行う教室は、Mac OS X Server を導入した Netboot 環境と Windows 仕様の LL 制御システム (ecall) を組み合わせたもので、45の学生ブースには PowerMacG5 (1.6GHz Power PC G5 1GB, Mac OS 10.3) 及びカメラとして iSight が設置されている。

2 目的

目的は明らかである。フランス語運用能力をいかに効果的に高めるかということである。そこでCALLによる学習が有効であるならばこれを採用し、その使用にあたって有効な方法とはどのようなものかと問うことであろう。CALLさえ導入すればコスト削減ができるとか、教員の資質や能力を問う必要がないなどという短絡的な発想を抱く者が少なくない中、実際のCALL教材の開発者や実践者は無計画にコンピュータを使用したり、CALLのみに頼った授業展開はかえってマイナスに働くというCALLの功罪をよく知っている。また学習時間を補うための自習用としての機能をCALLに持たせることの必要性はよく分かるが、その自習への導き方や学習履歴の活用となると、これらは授業そのものの中に十分に組み込まれているとは言えない。つまり問題は以下の三者の関係をどのように構築するかに関わる。



またここには学習意欲をかき立てるための装置として、言葉の背景となる文化・社会に対する「知的好奇心」が必要であることは言うまでもないが、これに加えて筆者は「創造」と「情報発信」も必要であると考え。「創造」とは予め設定された正答に辿り着くだけではなく、文章や「もの」を作り出すことであり、「情報発信」はそうして作り上げた文章や「もの」を広く発信し、他の学習者等に見せることである。取り分け「創造」は重要である。なぜなら「創造」は批判から生まれ、その批判力そのものが高等教育で育まれるべき本質の一つだからである。私たちがたとえば語学教育といえども、いや、語学教育ゆえに忘れてはならないことは、この批判から「創造」の道筋を講義の中で示す、そこまで行かないとしても促しを与えることではないだろうか。やや大げさになったが、CALLに戻せば、今必要なことは単にCALL教材を利用するだけではなく、CALLの持つ様々な特徴をより生かす形で通常の対面授業や自習といった学習プログラムと運用システムに組み込むことである。

3 実際と結果

先の「前提」に立ち、この「目的」達成のために筆者が実践しているCALL教材としては、電子メールによる宿題、WEB検索、PowerPointを使ったフランス語紙芝居、フランス語インタビューの聴き取り、Terra⁵⁾による文法・動詞活用・書き取り自動採点問題、iChatによる会話練習である。また、今回は学習結果の目安として学生へのアンケート「CALL授業アンケート」を採用した。アンケートは一年生については学習を初めて約9ヶ月後、フランス語学習時間数に多少ばらつきがある二年生には学習時間数に換算して最低330時間、最高420時間の段階で行った⁶⁾。一年生からは26名の回答があったが、二年生は7名のみの回答しか得られなかった。本論では後者の結果は参考にとどめ、主として一年生のアンケート結果を拠り所として論を進めていきたい。以下、四つの教材それぞれの実際を詳述しながらアンケート結果を分析していく（なお、電子メールによる宿題とWEB検索は既によく使われる言わば「道具」であるためここでは論じない）。

A PowerPointを使ったフランス語紙芝居

この教材の利用は2セメ（一年次後期）の中期に行う。物語上の展開に必要な文章と文法事項をいくつか指定した上で、各自が20行程度の会話スケッチを2週間で完成させるというものである。指定された文章と文法事項は、例えば「時間を尋ねる」、「人を紹介する」、「これは何ですか？」等の文章を入れて、近接未来を使い、冠詞の用法に注意するといった具合である。場所、人物、時刻、物語は任意で、これらの要素をPowerPointのファイル1枚にまとめるのである。今年度は大学院生（オーストリア人）が聴講しており、彼がいち早くこの課題を発表したことが他の学生の刺激となり、学生達は競うようにして紙芝居を作成した。

会話スケッチにわざわざPowerPointを使用する理由は次のようなものである。まず第一に、文字文章が平板に連続的に繋がるWord等のテキスト作成に対して、各ページごとに開くPowerPointは次の展開が未知で見ていて（読んでいて）はるかに面白い。加えて、文字を大きくしたり、図や写真、時には音声を挿入することで物語の理解を助けることができる。第二は、受講生に多様なコンピュータ操作に慣れてもらうことである。これはアクセント記号の付いたフランス語アルファベットの入力や、コピー&ペースト操作の習熟、WEBからの素材収集等の練習になる。特にWEB上からの素材収集にはフランス語の練習も兼ねているので、AltaVistaのimages検索ページ（<http://fr.altavista.com/image/>）の利用を推奨し、写真等は固有名詞を含めてフランス語で検索させる。コンピュータに慣れるという意味では、この紙芝居作成は他のCALL教材利用への架け橋の意味も持っている。第三に、学生それぞれが作成したファイルを教室内で発表する際にPowerPointのスライドショーは効果この上ない。教室内の学生達は同級生の作成した紙芝居の展開が次にどのようなようになるのか固唾を飲んでスクリーンを見つめる。正にこれこそが自らが作成した「もの」を発信し、共有する楽しみではないだろうか。

完成した紙芝居のファイルは電子メールの添付あるいは講義終了時に教室のサーバを利用して教師側に送り、次の講義で紹介する。紹介する際に教員はそれぞれ紙芝居の文法的誤用に力点をおいて修正アドバイスを行い、フランス語表現の応用や素材使用の工夫について評価して、物語全体のコメントを加える。もちろん「観客」となる他の学生から質問が出れば、作成した学生がこれに答える。ページを変える時のインパクトや展開に学生はそれぞれ工夫をこらし、時には相当のユーモアを発揮してこの紙芝居を作り上げる。中には写真をデフォルメしたり、フォントの大きさ、色調、形を変えて強調したり、効果音を入れたり、登場人物に有名人を入れたりして様々な工夫をこらす。それらの具体例を少し見てみよう。

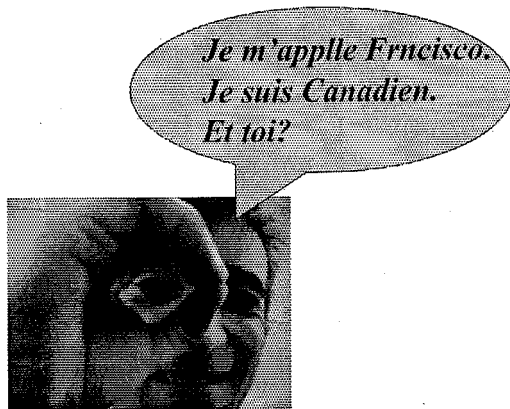


図 1

B: Et vous Monsieur, vous venez de France?

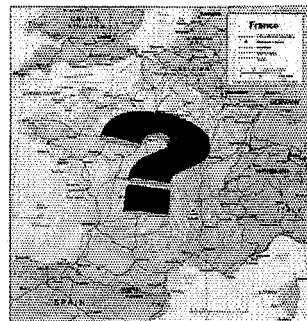


図 2

Bonjour!
Excuse-moi,
je suis en retard.



図 3

Excusez-moi,
vous avez 5
minutes? Est-
ce que vous
pouvez
m'indiquer le
chemin pour
aller au musée
du Louvre?

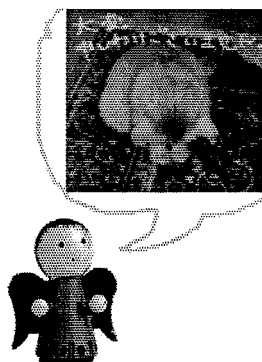


図 4

図 1 は吹き出しを用い、図 2 は地図を利用して語り手や疑問文の強調を行っている。図 3 は有名俳優を起用することで物語をインパクトある形で展開し、図 4 は人形を使って物語全体に統一感を持たせている。講義で習得した表現を（多少の綴り字の間違いはあるものの）巧みに使用してそれぞれが個性的な紙芝居を完成させている。

先にも述べたようにこの PowerPoint を使ったフランス語紙芝居作成の目的の一つはコンピュータの利用に慣れるというものだった。そこで、学生アンケートの質問項目 1 に目をやると、大部分の学生は講義の中でコンピュータを利用することに「ある程度慣れた」と回答している。

1 約10ヶ月コンピュータを使用して、講義の中でコンピュータを利用することに慣れましたか。

- A 十分に慣れた 5 B ある程度慣れた 16 C まだ慣れていない 5
D 全く慣れていない 0 E その他 0

B フランス語インタビューの聴き取り

これは生のフランス語にできるだけ数多く接してフランス語の聴き取り能力を伸ばすために作成された教材である。インターネット配信で広く公開し、いつでもどこからでも聴き取り練習ができるためには著作権に縛られないことが必要である。また、インタビューを自作することで予め質問項目を設定し、変更も自在となる。これらの理由から「フランス語インタビュー」は筆者自らが現地でフランス語話者に対して行って作成した。質問項目の作成から、現地での撮影日程の調整、インタビュー、撮影、編集、(Real形式へのエンコードを含む)ファイル作成、WEB配信まで全て筆者一人で行っている⁷⁾。次の二つの写真は撮影前の打ち合わせ(写真1 ニースのマチス美術館前)と撮影中のもの(写真2 チュニス)である。



写真1

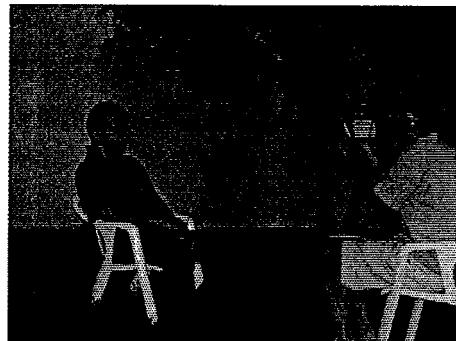


写真2

このようにしてインタビューはフランス語話者10名に対して行われ、学習者の情報処理の負担を考慮して1ユニットが約1分30秒～2分30秒の長さになるように編集した合計48のユニットで構成されている。これらのインタビューは筆者が運営・管理するオンライン・フランス語学習WEBページ「ユニヴェルシテ・ヴィルチュエル・フランセーズ」(<http://flare.media.hiroshima-u.ac.jp/french/index.html>)の「Interview」(図5)で公開されている。インタビュー相手の国籍と年齢はまちまちである。国籍についてはフランス人が6名と最も多いことは容易に推測できるが、他にはチュニジア人2名、モロッコ人1名、韓国人1名で、また男性が4名、女性は6名である。年齢構成も50代が3名、40代が2名、30代が2名、20代が3名と多様である。撮影場所も、広島、パリ、パリ郊外、グルノーブル、ニース、マラケシュ(モロッコ)、チュニス(チュニジア)とこれまた多岐にわたる。このようにフランス語インタビューであるにもかかわらずフランス人以外の外国人を4名も起用したことには理由がある。それはフランス人だけでなく、外国人フランス語話者のインタビューもフランス語を学ぶ者にとっては有効ではないかと考えたからである。これは著者自身が、フランス人の夫を持って長くフランスで仕事をして暮らす韓国人女性に日本とフランスに関してインタビューした時に感じたことであるが(図6)、彼女が日本とフランスに関して語る時のフランス語表現に学ぶべきことが多かったのである。フランス人のネイティブとしての正確な発音も欠かすことができないことは言うまでもないが、フランス語を習得した外国人のフランス語を聴くことも同じ外国人としてフランス語を学ぶ者には有効である。そこで、フランス語圏 francophone の国、モロッコとチュニジアでたまたま知り合いが長期滞在していた2004年夏にインタビューを行うことになったのである。

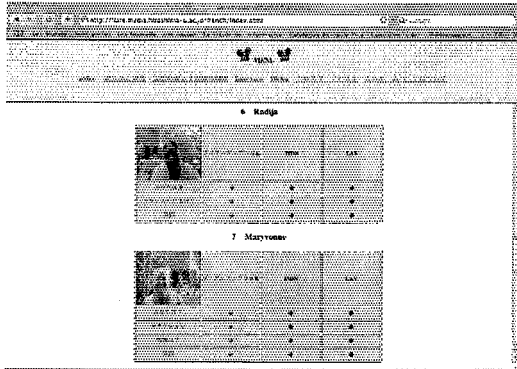


図 5



図 6

インタビューは予めおおよその質問項目を相手に伝え、ややゆっくり目にだができるだけ自然に答えてもらうように依頼した。また、質問している最中に脱線があれば、その流れで予め用意されていないことについても尋ねた。従って、聴き取りには部分的に高度なフランス語運用能力が必要とされるので、講義中は学生のレベルに合わせたユニットを聴くように指導している。例えば、一年次の前期途中では「あなたは?」、「生まれは?」、「お住まいは?」等のユニットを利用する。また、各インタビューの後半では、相互に関連しない独立的な質問を用意したことで国籍、年齢、性別によって様々な考え方とその表現が現れるようになってきている。このインタビューは学生の間では非常に評判が良く、後述する他の教材に比べて最も評価が高い。

- 9 講義で使用した CALL 教材で最も効果的と考える教材は何ですか。その理由は何ですか。
- | | | | | | |
|-------------|---|---------|---------|----------|----|
| A WEB ドリル | 6 | B iChat | 5 | C インタビュー | 11 |
| D ディクテの聴き取り | 3 | E その他 | 1 (無回答) | | |

回答結果が示すように、学生はこのインタビューが最も効果的と考えているようである⁹⁾。その理由を尋ねると、「いろいろな人のインタビューが聴けていい」、「本物の生の声が聴けて良い」、「発音が違って面白い」という声が多い。要するに学生達が求めているのは多様性とリアリティーと考えても差し支えないだろう。

なお、細かいことではあるが、今回のアンケートではインタビューの際のカメラの動きについても学生に聞いてみた。というのは、インタビュー取材を続けて行くうちにカメラを三脚で固定するよりも、むしろ微妙に動いた方が見る側は逆に集中できるのではないかという印象を持ったからである。そこで、アンケートを取る際に固定画面と手持ちで微妙に揺れを伴う画面の二つのインタビューを見比べて答えてもらった。その結果は次に通りである。

- 6 インタビュー教材のカメラは固定の方が集中できますか、それとも微妙に動いた方が集中できますか。
- | | | | |
|--------------|----|-----------------|---|
| A 固定の方が集中できる | 4 | B 微妙に動いた方が集中できる | 6 |
| C あまり大差はない | 13 | D 分からない | 3 |
| | | E その他 | 0 |

驚くことに学生も筆者と同じ印象を持って、少ないながらも「微妙に動いた方が集中できる」が数の上では「固定の方が集中できる」よりも上回るのである。この点はまだ十分に分析できていないが、上述したようなインタビュー教材に学生が求めるリアリティーに関係があるようにも思われる。

C Terraによる文法・動詞活用・書き取り自動採点問題

筆者は従来から文法等の4択自動採点ドリルを積極的に作成・活用してきたが⁹⁾、今年度からは新たにTerraを導入した。その理由はTerraであればWEBベースで教材の作成から学習管理までが可能で、HTMLの知識やファイル送信・管理の煩わしさがなく、多様な問題形式の中から用途に応じて形式を選ぶことができるからである。多様な問題形式が設定できることでは、フリーソフトのHotPotatoesもその実用性が認められているが、吉田・田中両氏が指摘しておられるように¹⁰⁾、学習履歴が作成できないことやファイル管理の複雑さなどにより、筆者は学生への課題にHotPotatoesのクロスワード・パズル作成(JCross)のみを利用している¹¹⁾。講義ではまず文法と動詞の活用問題を従来の4択自動採点ドリルと比較してTerraの使い勝手を学生に尋ねてみた。

3 WEB上のテストの形式は今回のTerraと以前のドリルとどちらが良いですか。その理由は何ですか。

A Terra 10 B 以前のドリル 7 C あまり大差はない 8
D 分からない 1 E その他 0

Terraを選んだ理由は、これが単語を直接書き込むことが可能なことから「単語の綴り字を打ち込める」、「綴り字を覚えられる」が多く、他方、以前の4択ドリルを選択した理由は「解説があったから」がほとんどであった。中には「解説があればTerraの方が良い」という意見もあった。今回はTerraのヒント機能を解説のために使用していなかったが、これをうまく取り入れれば複数の問題形式（選択式、穴埋め、並び替え等八つのパターン）を持つTerraの方が教材作成や学習管理も容易で、学生にも利用しやすい教材となるであろう。

このTerraに文法や動詞の活用に加えて、教科書として使用している*Reflète*に準拠した問題を用意しておけば、学生は必要に応じてインターネットからTerraにログインして復習することができる。またTerraには画像ファイルは勿論のこと、音声ファイルや動画ファイルも貼り付けることも可能なので、単に文字ベースの学習だけでなく音声や動画を利用した書き取り練習もできる。そこで、昨年作成したフランス語音声テキスト付き動画ファイル（この動画もすべて筆者自身の撮影による）を汎用してこのTerraで書き取り自動採点問題を作成した。

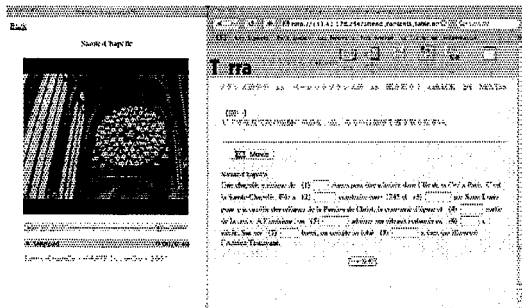


図 7

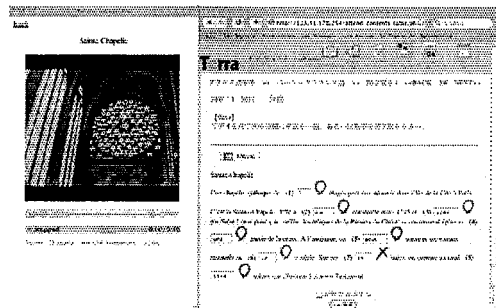


図 8

受講学生は設定されたコースから問題（この場合は「書き取り 1」でテーマはパリのサント・シャペル大聖堂 Sainte-Chapelle）を選択し、**Movie** をクリックすると画面が開いて動画が再生される。学習者はこの動画を見聞きしながら問題画面のフランス語を追い、空白部分にアルファベットをタイピングする（図 7）。聞き逃した場合は改めて再生すれば何度も聞き直すことができるし、動画の一時停止も可能である。解答後は下部の「○×採点」ボタンを押すと採点結果が○×アイコンで表示され、結果が一目瞭然となる（図 8）。採点結果はサーバー上に保存され、教材作成者は学習者の到達度をパーセントで参照することができる。この問題に対する二年生の評価は以下のように極めて高い（一年生の講義ではたまたま Real Player に不具合があって調査ができなかった）。

5 Terra によるディクテの聴き取り自動採点問題は聴き取りの練習として有効ですか。
 A とても有効である 2 B 有効である 5 C あまり有効でない 0
 D 全く有効でない 0 E その他 0

「有効である」と答えた理由は、「自分のペースで何度もやり直すことができる」ことである。ただ問題点もあって、これは Internet Explorer を WEB ブラウザに使用した学生が指摘しているのだが、フランス語のアクセント記号（é, à, ç 等）を正確に打ち込んでも「×」の表示が出てしまう、あるいはアクセント記号そのものをうまく打ち込めないことである。Netscape7.1や MAC の Safari (1.1) ならば全く問題はないが、アクセント記号の表記が WEB ブラウザに依存してしまうと正確な綴り字練習ができない。また、この書き取りでは、学生の習熟度に合わせたランダムな問題設定（空白部分の入れ替え）が欲しいところだが、これはサポートされていない。更に、動画画面はポップアップ形式でなく、エンベッド形式で提示はされるのだが、学習者の側で動画画面の位置を調整しなければならない。できれば問題画面に埋め込みのエンベッド形式で表示されるようなレイアウト上の工夫が欲しいところである。

現在この書き取り練習には計13のフランス語テキスト付き動画ファイルが用意されている¹²⁾。難易度を細かく設定していないので、現在の授業では学生のレベルに合わせて練習順序をアドバイスしているに留めているが、今後は書き取り部分を吟味して難易度の調整を行う予定である。また、多くの学生がこの教材の有効性を認めていることを考え、今後は未編集のモロッコとチュニジアの動画についても書き取り自動採点問題として利用していきたい。

D iChat による会話練習

PowerPoint を使ってフランス語の授業のコンピュータ操作にも慣れ、Terra で文法や動詞の活用、そして教科書の復習もできた。また、インタビューも聞いたし、書き取りも練習した。さて次は iChat による会話練習である。現在 CALL 教育で最も求められている双方向コミュニケーションの実現化である。しかし、これも「画面の向こうに相手がいるから好きなように話して下さい」では学習効果は上がらない。そこで筆者はここでも「対面授業」から「CALL による授業」の流れの中で iChat の活用を位置付けている。

まず一年次の対面クラスで二人一組になって簡単な会話スケッチを作成する。これは「1 PowerPoint を使ったフランス語紙芝居」で紹介したもののペア版である。例えば複合過去時制と近接未来を入れて、先週の出来事を話題にしながら今週末の予定を語るといったものである。作成に与えられた時間は15分。この会話スケッチを作成する作業は、一年次の比較的早い時期から頻繁に行っているせいかな学生は慣れたもので、教員がアトランダムに作るペアごとに精力的に会話文を作っていく。シナリオが完成したら前に出て全員の前で発表である¹³⁾。ここも「創造」と「情報発信」の場である。この時点で教員はフランス語表現や文法について細かいチェックはしない。ただ、余りにも分かりにくいものについては修正アドバイスを加える。講義終了後に各ペアは作成した会話パターン of 綴り字等の最終チェックを行い、ペア名を入れたそのテキストを電子メールで教員に送る。教員は送られた会話パターンを次回の CALL 教室の講義までに Word 等で添削・整理する。そして CALL の講義では添削した原稿を一通り説明した後に各学生のコンピュータにファイル転送する。例えば添削原稿は次のような具合である（教員の添削部分は太字イタリック）。

-
-
-

A: Oui, c'est une bonne idée!

Kaori&Kei

a: Allo.

b: Allo.

a: ~~Qu'est-ce que~~ Est-ce que tu as ~~de du~~ temps aujourd'hui?

b: Non, je ~~fais~~ vais faire un gâteau.

a: Oh, moi aussi, j'ai fait un gâteau mardi ~~dernier~~ ~~dernier~~, ~~aussi~~. Pourquoi tu fais un gâteau?

b: Parce que je vais *l'apporter* ~~la reunion~~ à la fête de Noël. C'est la bûche de Noël.

a: J'ai compris.

b: Au revoir.

a: Au revoir.

Eri&Arnold

A: Bonjour, Eri!

E: Bonjour, Arnold!

A: Je peux m'asseoir ici?

E: Oui, bien sUr. Il fait beau, n'est-ce pas?

A: Oui, il fait beau!! Je suis rentrE ici hier. Hier, il n'a pas fait beau. Il a plu. Qu'est-ce que tu as fait hier?

E: Moi, j'ai fait le mEnage parce qu'il a plu. Mais, je vais faire les courses demain, s'il fait beau. Et toi?

A: Moi, je vais partir pour Paris, parce que je vais faire une voyage d'affaire. Au revoir!

E: Au revoir. Bon courage!!

石倉さんしょーた

.
. .
.

ファイルを受け取った学生は自分が作成した会話文の間違いをチェックした後に、iChat を起動させ、会話パターンを作成した相手を「メンバーリスト」の中から呼び出す。まず挨拶から始め、自分たちが作成した添削済みの会話パターンを iChat で反復練習する。それを終えた後、次は他の学生ペアが作成した会話パターンを練習する。例えばあなたが電話の会話パターンを作成した Kaori&Kei ならば、次は「Eri&Arnold」や「石倉さんしょーた」が作成した会話パターンの練習へと順次進み、時間が許す限り他のペアの会話スケッチを練習していく。二年生には、会話の素材（例えば、比較の表現ならばホテルやレストランの一覧表やグラフ）をスクリーン上に提示して、iChat を開き、アトランダムに相手を探して提示された素材について要求された文法事項を使って意見交換をフランス語で行う。この iChat の会話練習に対する一年生の意見は次のようなものである。

4 iChat の講義での利用は会話練習には有効ですか。

A とても有効である 5 B 有効である 18 C あまり有効でない 3
D 全く有効でない 0 E その他 0

5 iChat だけで会話練習する方がいいですか、それとも講義でよく行うように対面と iChat の両方を使った会話練習の方が良いですか。

A iChat だけ 1 B 対面と iChat の両方 22 C 対面のみ 1
D どちらも言えない 2 E その他 0

多くの一年生が iChat の使用は会話練習に有効であると同時に、通常の対面授業と iChat との

両者を利用した会話練習が必要と考えており、二年生もほぼ同様の結果になった¹⁴⁾。学生がこの対面と iChat との併用を重視していることは興味深い。他のアンケート項目の自由記述欄を読むと、iChat の肯定的評価は「対話が集中して行い易い」、「絶対に話さないといけないような雰囲気がある」、「注意深くフランス語を発音しようという気持ちになれる」等で、対面のそれは「みんなの前でやるのは緊張感がある」というものだった。また、iChat の「話さないといけないような雰囲気」が逆に苦手という声もあった。これらの意見は、要するに iChat (更に言えばチャット) の待つ「閉鎖性」の良い面と悪い面の両面を表しているのではないだろうか。またここには、学生の多くが上述したような「もの」を作り上げて広く発信するという講義の目的を汲み取っているとも考えられ得る。その裏付けと言えるが、アンケートで CALL 講義の良い面として「情報の共有ができる」(例えば、他の学生が作成した「フランス語紙芝居」や「会話スケッチ」を見る) という意見をいみじくも挙げた学生がいた。従って、一つのクラス(教室)という環境で会話練習をすることを考えれば、やはり対面と iChat の両方を併用していくことが望ましいように思われる。

しかしである。せっかく iChat を使っているのだから、CALL 教室を飛び出して外の世界、フランス語の学習であるならばフランスと繋いで会話練習をしてみたいと考えたくもなるだろう。言い換えれば、「対面の不可能な世界へ」と。事実、ある二年生によれば iChat は「クラス以外の人とならいいと思う」という。フランスに繋ぐ際に問題となるのが時差である。いくらハードウェアを完璧にしてもフランスとの時差 8 時間だけは解消できない。こちらの午前中の講義はフランスの真夜中で、夕方の授業は向こうの早朝なのである。しかし、講義と講義を結びつけるのは容易ではないとしても、こちらの講義にフランスから個人を iChat で呼ぶことはできる。そこで今回はこのフランス語 CALL 講義をかつて受講し、現在パリの建築大学に留学中の卒業生に協力してもらい、早朝のまだ暗いパリと iChat で繋いでみた。

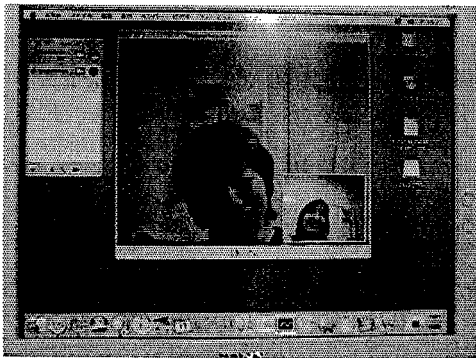


図 9

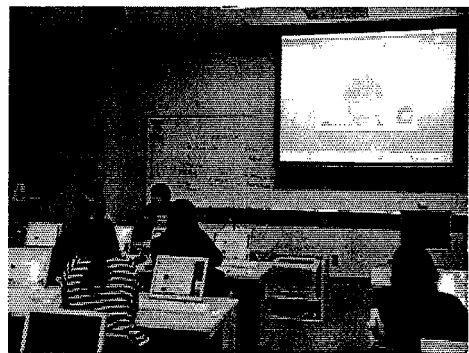


図10

時間はこちらの 7・8 限の講義 (15:00~16:30) の終わり頃、つまりパリでは朝 8:00 時頃である。接続は CALL 教室の教師用ブースと留学生の自宅 (パリ 16 区) の iBook G4 とを繋ぎ、カメラは両方とも iSight を使用した。CALL 教室は外部接続速度 100MB の LAN 環境で、留学生の自宅は ADSL の上り 1M、下り 15M で、今回はお互いに MAC.com のトライアルアカウントを事前に取得して接続のタイミングをはかった¹⁵⁾。接続はこちらから iChat の「インスタントメッセー

ジ」に留学生のアドレスを入れて呼んだ。最初彼女のインターネット接続にトラブルがあってやや手間取ったが、暫くしてうまく繋がった(図9)。画像と音声は問題なく双方に送られたが、音声は約1秒遅れて到達し、また一部には1秒程度途切れることもあったが、外国語のコミュニケーションとしては全く問題はなかった。今回は教師用ブースとの接続だったので、学生を教師ブースに座らせてフランス語の質問を彼女にぶつけるという形をとった(図10)。学生達はこの「距離」をどう感じ取ればいいのか多少戸惑いつつも質問を続け、カメラで窓越しに薄暗いパリの建物が映し出された時には歓声が上がった。

このように「対面の不可能な世界へ」繋ぐことはできた。しかし、問題は「閉鎖性」を持つiChatを今後講義の中にいかに有効に組み込むべきかであるが、筆者は未だ確たる方法を見つけ出してはいない。

4 結 論

以上、PowerPointを使ったフランス語紙芝居、フランス語インタビューの聴き取り、Terraによる文法・動詞活用・書き取り自動採点問題、iChatによる会話練習のそれぞれ四つのCALL教材について実際と適用及び結果について述べてきた¹⁶⁾。教材の機能には違いがあり、Terraのように主軸が自習教材であるものからiChatのように使い方次第では対面授業からCALL教材使用の講義への橋渡しの働きをするものもあった。また、PowerPointは「創造」の場を提供すると同時にiChatと同様「情報発信」としても有効であった。これらの教材は「前提」で示したように、現在は「インテンシブコース」という特殊な講義の中での利用であった。これらを一般のいわゆる教養フランス語で使用するためには新たな組み込み方と計画が必要であろう。

ではこういったCALL教材の利用は学生にどのように受け止められたか。まず、講義でコンピュータを使うことはどうなのであろう(これ以降のアンケート結果は一、二年生をまとめたものである)。

12 講義でコンピュータを使うことは外国語の学習として楽しいですか。

- A とても楽しい 13 B 楽しい 20 C あまり楽しくない 0 D 苦痛である 0
E その他 0

このアンケート結果を見ると講義でのコンピュータ使用は少なくとも苦痛ではないようである。しかし「楽しい」だけでは意味がない。果たしてコンピュータの使用が外国語の習得に有効と考えるか、更に上記の教材を含む筆者作成の「ユニヴェルシテ・ヴィルチュエル・フランセーズ」や「フランス語ドリル」を自習用として使うことが外国語の習得として有効かどうか尋ねてみた。

14 講義でコンピュータを使うことは外国語の習得に有効と考えますか。

- A とても有効である 6 B 有効である 27 C あまり有効でない 0
D 全く有効でない 0 E その他 0

11 ヴァーチャル・ユニバーシティーやフランス語ドリルを自習用として利用すれば、外国語の習得として有効と考えますか。

- A とても有効である 12 B 有効である 20 C あまり有効でない 0
D 全く有効でない 0 E その他（無回答が1）

この結果を見ると殆どの学生が外国語習得においてコンピュータの使用は有効と考えているようである。具体的な理由では、「視覚・聴覚に訴えて新鮮である」、「自分のペースで何度も勉強できる」、「復習に最適」、「自主的に参加できる」、「発音を注意深く聴くことができる」、「一度に全員の文章が見える」、「(特殊記号を含めた) フランス語の打ち方がわかる」、「他の人とコミュニケーションできる」、「フランスの生の素材に触れることができる」という声が上がった¹⁷⁾。

では有効と考えるならば、どれほど使いこなしているのだろうか。この点は外国語習得にコンピュータは有効という認識とは裏腹に、多くの学生は自習用としてこれらの教材を利用していない。

10 ヴァーチャル・ユニバーシティーやフランス語ドリルは自習用として利用しますか。

- A よく利用する 1 B 利用する 6 C あまり利用しない 13
D 全く利用しない 12 E その他（1）

このような結果の原因は何だろうか。次のような設問がその答えを考えるヒントを与えてくれるかもしれない。

13 講義でコンピュータを使う場合、最も問題となるのは何ですか。

- A 問題はない 9 B ハードの使いにくさ 5 C 教員の指示 1
D 自分の操作 16 E その他 2

半数近くの学生は「自分の操作」が講義でコンピュータを使用する際に問題となると答えている。講義でさえ問題であるならば、自習では尚更であろう。つまり、ここからはまだまだ学生のコンピュータリテラシーが十分ではないということがまず考えられる。コンピュータを自宅で利用している場合でも、そのインターネット環境が不十分であったり、また、コンピュータを所持していない学生にとっては、図書館等の自習室¹⁸⁾まで行かなければならないので時間が足りないという理由もあるだろう。講義が忙しすぎて時間がないという言い訳も可能だ。しかし、筆者はそれだけではなく、やはり「目的」で述べたような「CALLによる授業」から「CALLによる自習」への道筋がまだまだ十分ではないのではないのかと、CALL教室の窓からボードレールの詩句のように流れゆく雲を見ながら、そして巨人ガルガンチュワの遠ざかる足音を聞きながら今日も考えるのである¹⁹⁾。

注

- 1) 本研究は2003～2004年度学術振興会科学研究費補助金に基づく千葉大学との共同研究「遠隔利用を前提とした CALL 外国語教材の開発および適用についての研究」(基盤研究 B (1), 課題番号15300268, 研究代表者:高橋信良(千葉大学), 分担者:清野智昭, 田中慎, 岩崎克己, 平手友彦, 吉田光演)の研究成果の一部である。また同時に, 広島大学 CALL プロジェクト研究センターの支援も受けている。
- 2) この2年次の4コマとは「総合コミュニケーション・フランス語A」, 「フランス語口頭表現法演習」, 「フランス語訳読法演習」, 「フランス語聴解法演習」である。
- 3) G. Capelle & N. Gidon, *Reflets* 1, Hachette Livre, 1999 一年次では第10課 (Episode 10) 程度までしか進まないために文法単元は前倒しして学習するという配慮を行っている。
- 4) そのための教本として大木充・東郷雄二著『目でみるフランス語発音入門』, 駿河台出版社, 1989年を使用し, 前期終了時には個別面談テストを課して, これに合格した学生のみが前期試験を受験することができる。
- 5) この Terra (現在のバージョンは2.0.1) は株式会社エス・エス・エス SSS が開発した Multilingual に対応した Linux 稼働の e ラーニングシステムである。これについては, 既に吉田氏と田中氏が Terra を使用したドイツ語教育における試験的応用とその問題点について報告されているのでこちらをご覧頂きたい (吉田光演, 田中雅敏, 「Terra を使ったオンラインドイツ語学習プログラムの構築」, 『ドイツ語情報処理研究』15号, 2004, pp.1-14)。また, フランス語に関しては千葉工業大学の久保政憲氏が紹介されている (久保政憲「フランス語 e-Learning の試み」, 『パソコンリテラシ』28/7, 2003, pp.2-7)。
- 6) この「CALL 授業アンケート」の質問項目は以下の通りである。なお, 筆者はこのようなアンケート調査に慣れないために, 質問の仕方や回答選択肢の設定に不適切なものが含まれていたかもしれない。以下がアンケートとその結果である (一年次の7と8はアンケート実施日までにその内容を行うことができなかつたので調査していない)。なお, 「理由」等の自由記述は紙面の都合で割愛し, 必要に応じて本文で触れる。

CALL 授業アンケート (1年生)

- 1 約10ヶ月コンピュータを使用して, 講義の中でコンピュータを利用することに慣れましたか。
A 十分に慣れた 5 B ある程度慣れた 16 C まだ慣れていない 5
D 全く慣れていない 0 E その他 0
- 2 動詞の活用テストでは WEB 上のテストとペーパーでのテストはどちらが良いと思いますか。
A WEB 上のテスト 5 B ペーパーテスト 13 C あまり大差はない 6
D 分からない 2 E その他 0
- 3 WEB 上のテストの形式は今回の Terra と以前のドリルとどちらが良いですか。その理由は何ですか。
A Terra 10 B 以前のドリル 7 C あまり大差はない 8 D 分からない 1
E その他 0
理由 ()

- 4 iChat の講義での利用は会話練習には有効ですか。
 A とても有効である 5 B 有効である 18 C あまり有効でない 3
 D 全く有効でない 0 E その他 0
- 5 iChat だけで会話練習する方がいいですか、それとも講義でよく行うように対面と iChat の両方を使った会話練習の方が良いですか。
 A iChat だけ 1 B 対面と iChat の両方 22 C 対面のみ 1
 D どちらとも言えない 2 E その他 0
- 6 インタビュー教材のカメラは固定の方が集中できますか、それとも微妙に動いた方が集中できますか。
 A 固定の方が集中できる 4 B 微妙に動いた方が集中できる 6
 C あまり大差はない 13 D 分からない 3
 E その他
- 7 今日行ったディクテの聴き取り自動採点問題は聴き取りの練習として有効ですか。
 A とても有効である B 有効である C あまり有効でない D 全く有効でない
 E その他 ()
- 8 それはどのような点でそのように感じますか。
 ()
- 9 講義で使用した CALL 教材で最も効果的と考える教材は何ですか。その理由は何ですか。
 A WEB ドリル 6 B iChat 5 C インタビュー 11
 D ディクテの聴き取り 3 E その他 (無回答 1)
 理由 ()
- 10 ヴァーチャル・ユニバーシティーやフランス語ドリルは自習用として利用しますか。
 A よく利用する 1 B 利用する 5 C あまり利用しない 10 D 全く利用しない 9
 E その他 (1)
- 11 ヴァーチャル・ユニバーシティーやフランス語ドリルを自習用として利用すれば、外国語の習得として有効と考えますか。
 A とても有効である 11 B 有効である 15 C あまり有効でない 0
 D 全く有効でない 0 E その他 0
- 12 講義でコンピュータを使うことは外国語の学習として楽しいですか。
 A とても楽しい 11 B 楽しい 15 C あまり楽しくない 0 D 苦痛である 0
 E その他 0
- 13 講義でコンピュータを使う場合、最も問題となるのは何ですか。
 A 問題はない 7 B ハードの使いにくさ 4 C 教員の指示 0 D 自分の操作 13
 E その他 2
- 14 講義でコンピュータを使うことは外国語の習得に有効と考えますか。
 A とても有効である 6 B 有効である 20 C あまり有効でない 0
 D 全く有効でない 0 E その他 0
- 15 それではどのような点で有効と考えますか、どのような点で有効でないと考えますか。
 有効な点 ()
 有効でない点 ()

16 最後にこのコンピュータを使用した講義の感想を自由にお書き下さい。

(

)

CALL 授業アンケート (2年生)

フランス語学習総時間数 (週一コマで半期30時間) _____ 時間

- 1 WEB上のドリルは今回のTerraと以前のドリルとどちらが良いですか。その理由は何ですか。
A Terra 0 B 以前のドリル 0 C あまり大差はない 4 D 分からない 3
E その他 0
理由 ()
- 2 iChatの講義での利用は会話練習には有効ですか。
A とても有効である 0 B 有効である 6 C あまり有効でない 0
D 全く有効でない 0 E その他 1
- 3 iChatの会話練習をする方がいいですか、それとも対面での会話練習の方が良いですか。
A iChatだけ 0 B 対面とiChatの両方 6 C 対面のみ 0
D どちらとも言えない 0 E その他 1
- 4 インタビュー教材のカメラは固定の方が集中できますか、それとも微妙に動いた方が集中できますか。
A 固定の方が集中できる 1 B 微妙に動いた方が集中できる 1
C あまり大差はない 4 D 分からない 0 E その他 0
- 5 Terraによるディクテの聴き取り自動採点問題は聴き取りの練習として有効ですか。
A とても有効である 2 B 有効である 5 C あまり有効でない 0
D 全く有効でない 0 E その他 0
- 6 それはどのような点でそのように感じますか。
()
- 7 講義で使用したCALL教材で最も効果的と考える教材は何ですか。その理由は何ですか。
A WEBドリル 0 B iChat 0 C インタビュー 4
D ディクテの聴き取り 5 E その他 0
理由 ()
- 8 ヴァーチャル・ユニバーシティーやフランス語ドリルは自習用として利用しますか。
A よく利用する 0 B 利用する 1 C あまり利用しない 3
D 全く利用しない 3 E その他 ()
- 9 ヴァーチャル・ユニバーシティーやフランス語ドリルを自習用として利用すれば、外国語の習得として有効と考えますか。
A とても有効である 1 B 有効である 5 C あまり有効でない 0
D 全く有効でない 0 E その他 0
- 10 講義でコンピュータを使うことは外国語の学習として楽しいですか。
A とても楽しい 2 B 楽しい 5 C あまり楽しくない 0 D 苦痛である 0
E その他 0

- 11 講義でコンピュータを使う場合、最も問題となるのは何ですか。
 A 問題はない 2 B ハードの使いにくさ 1 C 教員の指示 1
 D 自分の操作 3 E その他 0
- 12 講義でコンピュータを使うことは外国語の習得に有効と考えますか。
 A とても有効である 0 B 有効である 7 C あまり有効でない 0
 D 全く有効でない 0 E その他 0
- 13 それではどのような点で有効と考えますか、どのような点で有効でないと考えますか。
 有効な点 ()
 有効でない点 ()
- 14 最後にこのコンピュータを使用した講義の感想を自由にお書き下さい。
 ()

7) このインタビュー教材の具体的な制作そのものについてはここでは触れない。興味のある方は次の拙論を参考にしていきたい。平手彦彦,「広島大学ユニヴェルシテ・ヴィルチュエル・フランセーズ オンラインフランス語講座製作の試みと可能性」,『広島外国語教育研究』第6号, 広島大学情報メディア教育研究センター, 2003年3月, pp.103-116

8) なお, 二年次になると効果的と考える教材はこのインタビューと後述する書き取りに二分される(インタビューが2名, 書き取りが3名, 両方と答えた学生が1名, 全て効果的と答えた学生が1名)。おそらく, フランス語を聴き取ることが難しいと自覚できたことが「聴き取り」だけでなく「書き取り」の必要性を明確にするのだろう。

9) 4択自動採点ドリルの作成については同上拙論を参照して頂きたい。

10) 吉田光演, 田中雅敏, 前掲書, p.12

11) このクロスワード・パズル作成は綴り字と語義の練習として二年次最後の課題としている。学生達がそれぞれのテーマに応じて作成した作品は4択自動採点ドリルと同様, 筆者のWEBページの「フランス語ドリル」(<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hirate/exercices.html>)で実際に解答することができる。

12) それぞれの動画の長さは約30秒で, テーマは「パリのアパートマン」Appartement à Paris, 「グルノーブルからの手紙」La lettre de Grenoble, 「プロヴァンスの村の市場」Marché de village provençal, 「シルヴァカンヌの修道院」Abbaye de Silvacane, 「田舎の家(プロヴァンス編)」Maison à la campagne (Provence), 「プロヴァンスの村々」Villages de Provence, 「カシスあるいは地中海」Cassis ou la Méditerranée, 「アヴィニヨンの橋の上で」Sur le pont d'Avignon, 「サント＝シャペル」Sainte-Chapelle, 「通りの芸術家(大道芸)」Artistes de rue, 「田舎の家(ポワトゥー編)」Maison à la campagne (Poitou), 「海の要塞フォール・ボワイヤール」Fort Boyard, 「サン＝サヴァン教会のフレスコ画」Saint-Savinである。これらはすべて動画として「ユニヴェルシテ・ヴィルチュエル・フランセーズ」の「Dictee」からいつでも見ることができる。

13) この役柄を決めて前で発表という学習スタイルは, 講義で使用している教科書 *Reflets* の会話の読み合わせでも行っている。登場人物の会話に比較的バランスが取れた会話パターンを取り上げ, 4～5人で登場人物に割り振って読み合わせ練習した後に全員の前で発表する。この

様子をビデオで撮り、後日その映像を見ながら発音やイントネーション、文のリズムなどの矯正を CALL 教室で行うというものである。

- 14) 注6のアンケート結果「CALL 授業アンケート（2年生）」の2と3の項目を参照。
- 15) それぞれの詳しい環境データは次の通り。教師用ブース：PowerPC G5, CPU：Power PC 970 (2.2), CPU 速度：1.6 Ghz, Mac OS 10.3.5, iChat：2.1。パリ側：iBook G4, CPU：PowerPC G4 (1.1), CPU 速度：1.07 Ghz, MAC OS 10.3.7, iChat：2.1。因みに留学生のプロバイダーは Free Haut Débit。
- 16) 筆者はこれ以外に二年次の最終課題としてフランス語で広島大学を紹介するビデオ作りを行っている。シナリオの作成（最小限の文法チェックには教員が関与）、出演、演出と撮影（一部教員が参加）を学生にまかせ、編集、ファイル作成と配信は教員が行っている。この「もの」作りの成果も筆者の WEB ページの「フランス語ドリル」で見ることができる。
- 17) 逆に有効でない点として学生が挙げたのは、「トラブルや不具合が起こる」、「ソフト起動に時間がかかる」、「自分で書かないから覚えにくい」、「ネットに繋いでいないと自宅での自習は困難」であった。
- 18) 広島大学には学生用自習室として「マルチメディア外国語自習室」と西図書館3Fに「マルチメディアフロア」が用意されている。詳しくは <http://home.hiroshima-u.ac.jp/flare/study-room/> をご覧頂きたい。
- 19) 本論作成にあたり講義に参加して教材作成物を提供してくれた学生の皆さん、インタビューに答えて下さった方々、そして iChat のために朝早くから準備をしてくれたパリ建築大学 (Ecole d'architecture Paris Val de Seine) 在学中の田中真弓さんにこの場を借りてお礼を申し上げます。

RÉSUMÉ

Pratique et Application des matériaux pédagogiques de CALL dans le cadre de l'enseignement du français: PowerPoint, interviews, Terra, iChat

Tomohiko HIRATE

Faculté des arts et des sciences intégrés
à l'Université de Hiroshima

L'utilité de l'enseignement de la langue française par ordinateur (CALL) est souvent envisagée sous l'angle du matériel pédagogique qu'il rend accessible. Mais à côté de la curiosité culturelle, de la mobilisation créatrice, et des facilités de publications, c'est aussi du côté des applications pédagogiques qu'il faut envisager les apports de cette nouvelle technologie. L'emploi des matériaux pédagogiques de CALL doit permettre de mettre en relation trois lieux et trois temps des études: le cours général, le cours assisté par CALL, et les études chez soi, moment conclusif qui voit l'ordinateur et CALL déployer toute leur efficacité. Dans cet article, nous présentons l'expérimentation d'un dispositif pédagogique qui associe PowerPoint, les interviews, Terra (un système d'enseignement sur le WEB), et iChat. Au terme de l'expérimentation, nous avons procédé à une enquête auprès des étudiants afin de vérifier l'efficacité de ce dispositif.

Outre un objectif évident de familiarisation aux ordinateurs, la fabrication d'une histoire à l'aide de ce "théâtre d'images" qu'est PowerPoint a pour but l'invention et la présentation d'une histoire visuelle et impressionnante habillée d'images réunies sur le WEB. Le résultat excède de beaucoup que des logiciels de traitement de texte comme Word permettent d'obtenir. Dans le cadre de notre expérimentation, nous avons mis en ligne une série d'interviews en français sur le site "Université virtuelle française". La série se compose de 48 unités et présente dix personnes de nationalités diverses: six Français, deux Tunisiens, une Marocaine et une Coréenne. Cette variété des nationalités donne une occasion de se familiariser aux accents et aux tournures françaises des Étrangers. Terra, un système installé sur le site et accessible n'importe quand et n'importe où, fournit des exercices d'autocorrection grammaticale, mais aussi des exercices de révision du manuel, et des dictées sur la vie culturelle. Cette dernière activité jouit d'une réputation excellente parmi les étudiants. La réciprocité est considérée comme une dimension essentielle de l'enseignement assisté par ordinateur. Nous utilisons le logiciel iChat qui permet de simuler un lieu de conversation sous diverses formes, aussi bien avec quelqu'un dans la salle de cours, qu'hors de la salle, et même dans Paris. L'emploi d'iChat est envisagé comme un temps intermédiaire entre le cours général et celui de CALL.

Au terme de l'enquête, il apparaît que presque tous les étudiants apprécient les

matériaux pédagogiques de CALL, mais ils ne les utilisent pas suffisamment. Ce résultat est révélateur d'une mise en relation pas encore insuffisante entre le cours de CALL et les études par CALL chez soi.